

法定研修の質の確保と向上に資する、自治体職員のためのチェックリスト(年度内・比較表)

No	大項目	中項目	小項目	セルフ・チェック欄								選択した根拠を記載
				令和7年度・当初				現時点(令和8年2月)				
				◎	○	△	×	◎	○	△	×	
1	土台	前提	国の示す「標準カリキュラム」を把握・理解できている。									
2		ビジョン	研修実施の拠り所となる理念やビジョンがある。									
3		関与	委託や指定事業者任せにせず、都道府県の担当職員が企画・運営に十分関与できている。									
4		庁内連携	庁内の(実支援)協議会の担当者とは日頃から相談しあえる関係ができている。									
5	チーム運営	振り返り	前年度の研修内容を振り返り、継続すべき点と改善点を把握できている。									
6		地域診断	前年度の地域実習等の結果から地域の状況を把握できている。									
7		研修チーム	研修の質について相談でき、共に検討できる関係者がいる。									
8	講師 ファシリ	講師	研修の企画・運営は自都道府県の職員・講師で行うことができている。									
9		ファシリ	演習ファシリテーター育成の仕組みができている。									
10		ファシリ	研修講師・ファシリテーターを十分確保できている。									
11	周知	働きかけ	法定研修の実施や相談支援専門員の育成について、管内市町村は自身の役割を理解・認識できている。									
12		案内	申込時に受講希望者(推薦事業所)へ研修の目的を分かりやすく案内できている。									
13	地域 実習	実習	地域での実習にあたり、協力者(市町村等)に目的と実施方法を説明できている。									
14		実習	地域の実習協力者との信頼関係が構築できている。									
15	課題 解決	課題抽出	研修実施上の課題を把握できている。									
16		課題解決	研修実施上の課題を解決する見通しを持っている。									
17		次年度	翌年度以降も安定して研修が実施できる仕組みづくりができている。									